

# H29年度 自己評価・自己点検のまとめ

認定こども園 桔梗野幼稚園

当園では、子ども達の安全と健やかな成長を見守りながら、一人一人の活動を助長することを目的とすると共に、また、サービスの向上と保育教諭のスキルアップに努めながら、自己評価と上司の評価について実施すると共に、定期的なカリキュラム・マネジメントに取り組み保育の見直しをし、保育教諭等キャリアアップ研修に参加し、一人ひとりの職員が自覚を持って自己研鑽に励みました。また、職員の向上を図るためにチェックリストを活用し、良かった点努力したい点、改善点などを確認してまいりました。

また、地域や保護者との連携を深めながら、子ども達の大切な命を預かっているという使命感を全職員が共有していけるように努力していきたいと思っております。

## 1. 自己評価

### ①保育現場の安全管理（子どもの遊びと安全管理）

・子どもたちの遊びを見直すと、子どもたちは危険を伴いながらも冒険や挑戦を繰り返し、身体的、精神的、社会的に成長していることがわかる。子どもは、ある程度危険性を内包している遊びに興味関心をもち、遊びに挑戦することにより、発達が促進されていくので、危険に向き合う事により、危険に対する予知能力や事故に対する回避能力も身につけていく事ができる。

子どもも職員も生命を守り、日常の保育や園に対する信頼を維持するために、危険を予知・予測し、回避に努めながら「最も大切な子どもの命を守る」ということを自覚することが大切であり、保育現場の安全管理が基本としていくことを心がけて行きたい。

### <改善策>

・保育現場における事件・事故の予知・予測のための取り組みとしては、日常の保育の中で発生している事件・事故に学びながら準備しておくことが重要である。また、現場の事件・事故については、予知・予測の可能なもの困難なものがあるが、安全管理の対応においては、事件・事故に結びつく可能性のある情報は、必ず全職員で共有する体制を確立していくことが必要である。

### ②衛生管理（衛生の保持）

・子どもの健康及び安全は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、当園においては、一人一人の子どもの集団全体の健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに努めなければならない。全職員が子どもの健康及び安全に関する共通理解を深め、保護者や地域の関係機関との協力、連携を図りながら取り組んでいくことが必要である。

また、感染症の広がりを防ぎ、安全で快適な保育環境を保つために常に清掃や衛生管理が重要である。子どもの病気の早期発見と迅速な対応や、子ども一人一人の体調の変化に早く気づき、適切なケアをすることは、病気の重症化や合併症を防ぐことにつながります。そのためにも、登園時の子どもの体調や家庭での様子を把握すると共に、保育中を通して、子どもの体温、食欲、顔色、活動性等について、子どもとの関わりや観察を通して把握することが必要である。子どもの体調が悪く、いつもと違う症状等がある場合には、子どもの心身の状態に配慮した対応を心掛けて行く必要がある。

## <改善策>

- ・感染症を防ぐためには、子どもが自分の体や健康に関心を持ち、身体機能を高めていくことが大切である。特に、手洗いやうがい、歯磨き、衣服の調節、バランスのとれた食事、睡眠と休息を充分にとる等の生活習慣が身に付くように、丁寧に伝え、子ども自らが気付いて行えるよう援助します。子どもの年齢や発達過程に応じた健康教育の計画的な実施を求められます。また、家庭における規則正しい睡眠と十分な栄養は子どもの成長に不可欠であり、保護者に理解と協力を求めながら体調管理について保護者に助言する等、きめ細やかな対応を行っていく。

## 2. 自己点検分析

### ①危機管理

- ・危険を防ぐための危機管理意識という大切さ、特に重要になることが「たぶん、大丈夫だろう。前からやっていることだから大丈夫だろう」というような主義的な発想から、常に危機への意識を高め早期発見、早期対応による問題事象の未然防止ということに努めていかなければならない。一人一人の職員が自覚を持つという事が重要である。いつも子どもに対して「ちょっといつもと違う…」というような問題意識をもって取り組むことが大切であり問題意識が「危機の芽」を早期に発見することにつながり、結果として事故、怪我の未然防止に繋がる。また、感じるものがあつたら、そのまましておかず、必ず園長に報告するという習慣を怠らない。職員の間でも常に「報告・連絡・相談・報告」を実行する習慣をつけ、全職員で共通理解を図る必要がある。

### ②保護者との関わり

- ・保育教諭が保護者と会うのは、一日のわずかな時間です。できるだけ子どもの成長の様子や出来事を伝えてあげること。また、良いことだけでなく些細な問題も伝えてあげたり、多忙でゆっくり話ができない保護者には、笑顔で挨拶や声がけを心がけ、一言でも子どものことを伝えてあげるなど、日々のコミュニケーションを多くすることが保護者対応の基本であることを職員間で共通理解を図ることを必要とする。また、何気なく言った些細な言葉や、ちょっとした否定の言葉が相手にとっては許しがたい発言になってしまうものです。保護者との問題が起きた際は、一人で解決しようとせず、早めに園長などに相談をし、園全体で対処方法について話し合い、職員同士で共通理解を図りながら、再発防止を行い保護者への信頼関係が築けるように、誠意を持ち迅速な対応ができるように努め心がけていきたい。

### ③職員の意識改革

- ・昨年度に引き続き、職員が今の現状に満足せず、常により良いものを追求し意識をもつことを心がけていきたいものである。

全てに対して自分の行動に一つ一つ責任を持ち、最後までやるという意識も高めながら、職員一人一人としっかりと向き合い、個々の「気づき」を大切にしながら、取り組んでいきたい。

また、どんな小さなことでも職員間で話し合い共通理解を図り、基本としている「報告・連絡・相談・報告」をうまく行っていく必要がある。

今後は、日々の仕事の実体験を通して職員のニーズに合わせて様々な研修会に参加し、研修制度を通じて何を実現するのか、という研修の目的を職員達が認識し、共有することを学びの土台としながら、保育に活かしていきたいものである。

### 3. まとめと今後の展望

#### <園として>

・基本方針の、「日々の保育に満足せず、保育の真の在り方とは何を問い、自分の保育を見つめ直し、一人一人が“今より一步、レベルアップ”を心がけ、保育者として必要な知識及び技術の習得をする」を全職員が常に考え意識を持って過ごす。特に職員の意識改革という点では、何事においても自分から気づき考え行動するという事を意識し、一人一人が責任を持ち自覚することを重要視する。細かいことも、基本の「報・連・相・報」を怠らず、物事に迅速に対応し、当たり前的事として自然に出来るような職員間であるように意識していきたい。

昨年同様ではあるが、大切な子どもを預かっているという意識を忘れずに、職務にあたるようスタッフ一同充分に理解し、今後の展望に向けて邁進していきたい。

#### <スタッフとして>

・今年度もそれぞれの反省点の改善策や課題など再々度確認しながら各々で見直しをし、次へと繋げていくことが必要である。

また、今の自分に満足せず常に上を目指し成長していくことを大切にしながら過ごします。そして、子どもたちに関わる私たちは常にプラス思考でなければいけません。生きていく事が感動で、働くことが楽しいと思える気持ちをいつでも持ち続け、今後の展開に繋がっていく。

スタッフ全員が、職員目標の「保育者自らが喜び、楽しんで園に来て元気に帰る」ために、関わるすべての人と愛する人間関係を育む職員になります」(“Love Communication”)を実践していきたいように今後も期待したい。

平成 30 年 3 月

学校法人 鳳明学園 認定こども園 桔梗野幼稚園